

## 作文の部

### 最優秀

「人との関わり」

谷口中学校三年 濱村 可奈

先日、学校へ向かう途中、通学路を歩いている学生に向かって「おはよう、いってらっしゃい」。と声をかけている元気なおじさんがいました。それに笑顔で答えている学生を見て普通は知らないおじさんに話しかけられたら多くの人が無視をしてしまうと思います。しかし誰もが嫌な顔一つせず答えているということは、私が住んでいる地域は、とてもあたたかい環境なのだと感じました。そのおじさんは、以前にも何度か見かけたことがあり、そのときは、とても怖そうな人だと思っていました。しかし、この出来事をきっかけに、おじさんに対する印象が変わりました。

私は、おじさんに対して勝手なイメージを持っていましたが、実際に、あいさつをしているところを見てから、その人に注目してみると、また違った面や本当の姿を知ることができました。

人との交流や繋がりは、相手や周りを知るという意味で、とても大切だと思いました。

そこで考えました。 “今、住んでいる地域に、自分は関わっているのか” と。

私は、ジュニアリーダーというものに入っています。ジュニアリーダーとはその名の通り、人々の中で率先して前に出る「リーダー」を育てるというもので、地域や子ども会等での行事でも活躍しています。

例えば、地域のクリスマス会や運動会等では、主催者側が私たちに提供してくれた時間の中で、皆で楽しめるゲームや簡単な手遊び等を行います。それらを通して地域の子とも達と交流しています。そう考えると、私は、少しでも地域に関わっていると思います

また、そこで行うゲームは、ジュニアリーダーの先輩方が代々行ってきて、遊びやすくより良いものにするために、たくさんの改良がされ今の形になったものです。それを受け継ぎ、今度は私たちが次の代へと繋げます。ここには当然歴史が存在しており、その歴史の中に自分が関わっているということは、大変すばらしいと思います。

人と関わるということは、私自身とても楽しいと感じます。すると、先ほど述べた、おじさんが積極的に地域の人達と交流しようと元気よくあいさつをしていた理由も分かるような気がします。

私も、あいさつや地域での活動を通して、地域の交流を自ら進んでする大人になりたいです。

また、自分が地域の輪の中に入っている、ということをお忘れず、さらにそのことに誇りを持って生活していきたいです。

皆さんもぜひ、まずは小さなところから、地域に目を向けてみてください。人それぞれあると思いますが、きっと新たな発見や、何か思うことが生まれてくるのではないのでしょうか。

## 優秀

友だちっていいな一

九沢小学校三年 溝口 なつめ

わたしは、夏休み前にバトミントンのしあいで、目にけがをしてしまいました。けがのせいで学校にも行けないし外にあそびに行く事もできませんでした。もちろんテレビやマンガやゲームもだめでした。

楽しみなことは、お母さんに本を読んでもらえる事ぐらいです。ぽっぺん先生シリーズやダレン・シャンなど長いお話を読んでくれました。

でもけががなおるにつれだんだんたいくつになってきました。でもそとであそんでもだめだし、学校にも行けないから、すごくいやだなあと思っていました。その時「ピンポン」と音がしました。

とを開けたら、クラスの友だちが二人いました。おみまいにきてくれたのです。

二人は、おこづかいをだしあってパンを買ってきてくれたのです。そのあとわたしの家であそんでくれました。

おままごとをしてあそびましたすごくすごく楽しくてうれしかったです。けがでしぼんでいた心の花がぱあっとさいたようにうれしくなりました。

二人が帰ってから夜ごはんの後に買ってきてくれたパンを食べました。わたしは、パンがきらいなのに、そのパンはすごくおいしかったです。

その味はゆうじょうでいっぱい味でした。ゆうじょうのこもったパンは、すごくすごくおいしかったです。

三日後には、べつの友だちがあそびにきてくれました。

次の週には、べつの友だちが家にさそってくれました。その子は男の子だったのにそとであそばず、中でいっしょにボードゲームをやってくれました。

こんないい友だちがいて、わたしはうれしいです。

もしわたしと同じ立場の友だちがいたら、今回わたしがしてもらった事をぜひしてあげたいです。

なぜなら今回のことがとてもうれしかったからです。

友だちっていいな一友だちって大事だな一とあらためて思いました。

## 優秀

僕の住んだ町の在り方

清新小学校六年 岩瀬 浩暉

僕は父の仕事の関係で、四回引越しをしています。そしてそれぞれの場所から地域社会とのつながりの違いを感じたので、その違いについて考えてみました。

まず、僕が生まれ、今も住んでいる相模原市から福井県に引越しをすることになります。福井県では、一戸建てに住み三世代同居の家が多く、家と家を行き来し、近所のおじいさん、おばあさんとも、よく会話をしました。また、祭りや行事で子どもを大切にしてくれたり、学年を問わず小さい子からお兄さんたちとカンケリや鬼ごっこをして遊びました。

次に僕は、栃木県や広島県に引越しをすることになります。僕は団地に住み。周りは核家族が多かったです。団地の中の友達とはよく遊びましたが、大人同士の交流は少なく、他の棟の人達とは、話す機会が少なかったと母が言っていました。ただ、近所の神社では、ちびっこすもう大会や節分祭り、お神楽などがあり、伝統芸能が子供へ伝えられている良い地域だと思います。

そして僕は相模原市に帰ってきました。相模原市のこの地域は、人口が多く、アパートやワンルームマンションも多くあります。しかし、子供会や自治会の加入人数は減少傾向にあり、近所付き合いなども少なく、回覧板などを届けに行っても、家のポストに入れるだけで、会話などもなく、交流が少ないのが現状です。祭りなどの行事は若者の参加が少なく子どもとその親、おじいさんやおばあさんたちで成り立っているものようになっています。

先日、近くの家泥棒が入って、それを母が見つけ、通報したため、犯人は捕まり一件落ち着きましたが、日頃から近所の人とコミュニケーションをとり、お互いの顔を知っておかないといけないなあと、実感する出来事になりました。

また、急に雨が降ってきて、家の洗濯ものが干したままで、雨が振っていることを知らなかったとき、近所のおばさんが雨が降っていることを教えてくれました。今、思い出してみると近所の人との関係を持っていて良かったなあとと思います。

ぼくは、日本には地域のふれあいが少ない場所があり、それで良いと思っている人々に、地域の活性化という意味も込めて、地域内の人々の仲が良くなることを進めます。世代を超えて祭りなどの行事に参加することで、コミュニケーションが深まり、お互いに助け合うことができ、町が盛り上がるからです。そして、数多くの知識から将来想像力の豊かな子供が増えると思います。

僕はこの文を書いて改めて近所とのふれあいの大切さを感じました。だから、今の自分の行動を見直しして、挨拶から始めたいと思います。そして、将来は子供とおじいちゃん、おばあちゃんが仲良く、楽しんで生きられる世の中にしたいと思います。

## 佳作

とびたいつばめ

上鶴間小学校二年 有里 慶一

「つばめがすからおちちゃっているんだけど、どうしよう。」

7月24日の朝いとお母さんからでんわが、ありました。家にある糸ミミズをもってぼくと弟とお母さんと、車にのっていとこの家に行きました。

つばめはダンボールの中に入れてあって、まわりには、ペーパータオルとしんぶんしが切って入れてありました。

ちかくで野生の鳥を見たのははじめてでした。つばめがぼくの顔をまばたきひとつせずじっと見ていました。ぼくはうれしくて、かわいくてだっこをしたかったです。

ぼくは、「とべるといいな。」と思いました。

糸ミミズをおゆでやわらかくして口の前にもっていきました。つばめは、食べずにじっと、目をあけていました。ぼくは、図書かんで鳥の図かんをかりて、えさをしらべようと思いました。ぼくたちは、一ど家に帰りました。帰る車の中で「つばめさんお母さんにいっばいだっこしてもらえるかなあ。」と思いました。

いとお母さんがどうぶつびょういんにでんわをしたら「つばめは、人の手でそだてるのはかなりむずかしい」と言われたそうです。

すのちかくの木にもどしてあけて、親鳥に見つけてもらうのがよいそうです。

ぼくは、もしつばめが木からおちてねこに食べられるとかなしいと思いました。

いとお母さんからでんわがありました。親鳥がつばめをむかえにきたそうです。

電線に親鳥といっしょにとまっていたそうです。ぼくは、親鳥がいっしょうけんめいさがしてくれたからうれしかったです。

鳥もかぞくの思いやりがあるんだなあと思いました。

## 佳作

友達と助け合うこと

南大野小学校四年 小田桐 舞

私は今年の四月に、南大野小学校に転校してきました。

四月の始め、四年二組の教室で、自こしょうかいをしました。国語の時間で、自分のことを発表する時間でした。クラス全員で丸く輪になってすわりました。最初は、何を言えばいいか、分かりませんでした。どンドンすぎて行って、とうとう私の番になってしまいました。こまってしまい、ずっとだまっていたら、となりの女の子が、「自分の得意なことを言えばいいのよ。」と教えてくれました。声をかけてくれた時は、本当にうれしかったです。「私のとくぎは、フルーツをふくことです。」と言ったら、みんながはく手をしてくれました。ちょっと照れてしまいました。もしその子の一言がなかったら、大へんでした。

四月の終わりに、初めてのクラブがありました。私は友達といっしょに、屋内スポーツクラブに入りました。四年生だけではなく、五年生や六年生もいるので、少しふ安でした。人数が多いので、十五人くらいの三つのグループに分かれました。私たちは、ドッジボールをすることになりました。

十五人の中には、四、五、六年生がまざっています。六年生はやっぱりボールが速かったので、私はすごいなあと思いました。む中になってにげていたら、私はつまずいてしまいました。そこへ、六年生のキャプテンの男の子の投げた、とても強いボールがきました。

ボールは私の右うでに、思いっきり当たりました。私はバランスをくずして、バタンとたおれてしまいました。先生が「だいじょうぶ。」と心配して、来てくれました。キャプテンも「ごめん、だいじょうぶ。」と言って、私のそばに、来てくれました。そして、近くにいた六年生の女の子が、「私が手当てをします。」と言って、保健室へ連れていってくれました。友達もとても心配してくれました。

みんなが、やさしくしてくれたので、私は本当にうれしかったです。もしもだれかが私と同じようになったら、私もやさしくしてあげようと決めました。

五月、算数の時間にプリントの答え合わせをしました。最初の方の問題は、みんな合っていました。でも、私の席のとなりの男の子が、答えを間ちがえていました。こまったような顔をしていたので、やり方を教えてあげました。その問題は、ちょっとむずかしい問題でした。少したってから、その男の子が、「さっきはやり方を教えてくれて、ありがとう。」と言ってくれました。クラスの友達に親切にしてあげられたので、とてもうれしかったです。

友達は、自分が分からない所を教えてくれたり、助けてくれる大切な人なので、私もみんなにやさしくしてあげたり、これからもおたがいに助け合っていこうと思います。

## 佳作

地震を通して学んだ事

谷口中学校三年 吉野 夏生

私は毎年夏休みに、母の実家である静岡に泊まりに行きます。今年、弟はサッカーの遠征があった為、一人で先に静岡に向かいました。そこで、8月11日の早朝に起きた「静岡沖地震」を体験しました。生まれて初めて味わった恐怖に身動き出来ず、必死に揺れが収まるのを待ちました。祖父母はいるものの、両親、弟とみんなバラバラの状態だったので、みんな無事だったのか更に恐怖になりました。自宅の電話は通じませんでした。携帯で両親と連絡が取れ心底ほっとしました。別棟に住んでいる叔父が駆けつけてくれ、いところの無事も確認できました。食器が何個か落ちて割れた程度の被害で済み、本当に良かったです。すると、祖母がいきなり「断水するかもしれない。」と言って、家にあるポリタンクに水を貯め始めました。私は断水なんてする訳ないと思っていましたが、いところと一緒に風呂桶に水をはったり、ペットボトルに水を貯めました。貯めている内に水の出が悪くなり始め、本当に断水してしまいました。蛇口をひねれば水は出るものと当たり前のようだったので、驚きよりもショックでした。

その後断水は夕方まで続きました。幸い沢山の水を確保していた為、困る事はありませんでしたが、そのまま断水が続いていたらと思うとぞっとしました。そんな中、祖父母の家の周りでは近所同士声を掛け、ポリタンクを貸し借りしたり、給水場の情報を教えあったりしました。少し離れた所に住んでいる親戚の家は、ポリタンクもなく、お風呂にも水をはっていなかった為、給水場に何度も足を運ばなければなりません。一人で運べる量は限られているので祖母が手伝いに行ったりしていました。自分の家のことだけでなく、親戚、近所の人達のことにも気かけ助け合っている姿に感動しました。

私は普段、ご近所の人とは挨拶する程度です。都会では隣にどんな人が住んでいるのかわからない人も沢山いると聞きます。今回の地震を体験し、平日頃の人とのつながりや関わりはとても大事なんだなということを感じました。

普段、挨拶も交わさない人たちの中に、いざという時助け合う気持ちなんて生まれてないと思うからです。めんどくさいなと思う事もあるけれど、地域や自治会の奉仕活動などは、人とのふれ合いを持ついい機会なんだという事を知りました。

私も少しずつ、そういう活動に参加していきたいと思いました。

## 標語の部

### 最優秀

伝えよう 感謝の気持ちを あいさつで  
大野小学校五年 野澤 侑史

### 優秀

「おはよう」で 元気にスタート スイッチオン  
星が丘小学校三年 清水 優太

### 優秀

家族みんなが宝物 私もみんなの宝物  
双葉小学校四年 梶 夏実

### 佳作

ともだちは わたしのゆう気を ばいにする  
津久井中央小学校二年 小島 南

### 佳作

見守り隊 その目が 危険を遠ざける  
大沼小学校五年 加藤 真唯

### 佳作

考えよう 自分の言葉 相手の心  
鵜野森中学校一年 蝦名 美咲

## 作文・標語の部 選評

青少年健全育成啓発作文・標語の募集は、今回で二十五回目を迎えます。この目的は、青少年健全育成に関する作品を通して、青少年の考えを理解すると共に、市民の青少年健全育成への意識向上を図り、今後の青少年健全育成啓発活動の一助とするものです。今年度も、家族・地域社会・学校をテーマとし、体験したことや思ったこと、広く呼びかけたいことなどを、作文や標語にいただきました。今回もたくさんの作品が寄せられましたが、どの作品からも明るい将来に向けた児童・生徒の思いが伺えました。応募いただいた作品の中から、審査を重ねた結果、青少年健全育成啓発作文・標語として特に優れたものをそれぞれ六作品ずつ選定させていただきました。

作文の部では家族との出来事・友達関係・地域社会との関わり・部活動などを通して思ったことや考えたこと等、様々な内容が寄せられました。その中で、最優秀には谷口中学校三年生濱村可奈さんの「人との関わり」が選定されました。ジュニアリーダー活動を通して自分が地域の輪に所属していることを再認識した濱村さんが、あいさつや地域活動を通して、地域の交流を自ら進んでする大人になりたいという強い思いが感じられる内容でした。優秀には九沢小学校三年生溝口なつめさんの「友だちっていいな！」と清新小学校六年生岩瀬浩暉さんの「僕の住んだ町の在り方」が選定されました。溝口さんは、自分がケガをして休んだ時、自宅までお見舞いに来てくれた友だちの優しさと温かさ、自分の嬉しい気持ちを素直に表現していました。また、岩瀬さんは四回の引っ越し経験をもとに、現在住んでいる地域の関係性を分析し、地域の活性化には近所とのふれあいが大切であるという熱い思いが表現されていました。

標語の部では、短い語句に伝えたい大きな思いがぎっしり込められていて、元気をもらえる作品ばかりでした。その中で、最優秀には、大野小学校五年生野澤侑史さんの「伝えよう 感謝の気持ちを あいさつで」が選定されました。人との関わりの中であいさつの大切さを見つめ直させてくれる標語でした。日頃、小学生は多くのボランティアの方々に見守られて登下校をしていますが、多くの小学生が進んで元気にあいさつをしてくれることが期待されます。優秀賞には、星が丘小学校三年生清水優太さんと双葉小学校四年生梶夏美さんの標語が選定されました。いずれも素直な子どもらしい思いや優しさが感じられ、特に梶さんの「家族みんなが宝物 私もみんなの宝物」という標語は、私たちの心に強く響いてくるものでした。

また、標語については、一般の方からもご応募いただきました。これは、青少年に絡む痛ましい事件や暗いニュースが後を絶たない中にありながら、青少年の健全育成を願う大人の熱い思いがあることの証として受け止めております。多くの市民の方々に青少年の健全育成啓発活動が支えられていることを改めて実感いたしました。

選考会では、市民の代表として選考にあられた委員の方々が、一つ一つの作品を何度もうなずきながら丁寧に読み返され、大変熱心に話し合われました。どの作品からも、相模原の未来を担う子どもたちの希望に満ちた明るさとたくましさを感じられ、審査会場では青少年に寄せる大きな期待と励ましの言葉がたくさん聞かれました。

最後となりましたが、今回の作文や標語を通して、多くの市民の方々に青少年の健全育

成に関心を深めていただき、啓発活動の輪が広がることを切望しております。  
相模原市の青少年のより健やかな成長を祈念し、選評といたします。

教育委員会 学校教育課